

いる学部生は少数に過ぎないのではないかと推測する。本書には、実際には使われていないが画像再構成を理解する上で重要な2次元フーリエ変換法による再構成画像の例など、ほかの書籍では目にすることのない画像が数多く示されている。このように本書からは、読者に画像再構成法をなんとか理解させたいという著者らの熱意が伝わってくる。読者には、本書を用いてもなお難解な個所があることはあらかじめ承知の上で、最後まで諦めることなく読み進める覚悟が求められる。そして本書に加え画像再構成シリーズの書籍も参考にしながら、トモシンセシス、CT、SPECT、MRIの画像再構成を完璧に理解し、是非その感動を味わっていただきたい。

最後に、このような素晴らしい書籍を執筆頂いた篠原先生及び共著者の先生方に、心より感謝申し上げます。また画像再構成の分野は、圧縮センシング等の新しい考え方を取り入れて日々進化しているので、今後も同シリーズの執筆を是非継続していただきたいと切に願っている。

(川下郁生 広島国際大学保健医療学部)

(ISBN978-4-86003-451-1, B5判 240頁, 定価本体3,800円, 医療科学社, ☎03-3818-9821, 2014年)

語りあうためのICRP 111

—ふるさとの暮らしと放射線防護—

ICRP 111 解説書編集委員会 編著



東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故は、福島で生活する私たちの“生きることへの自信と誇り”を奪いました。あれから4年余り、たくさんの人たちの尽力と自らの努力によって、今福島に住む人の多くはその自信と誇りを取り戻しつつあります。しかしながらその一方で、生き方を見いだせず喪失感を抱えたまま

の人たちも少なくありません。

の人たちも少なくありません。

この本は、ICRP Publ.111の解説書です。Publ.111は、ICRP 2007 勧告 (Publ.103) を、特に現存被ばく状況が長期化する中でどう生かしていけばいいかという観点から補足する勧告です。“解説書”ですから、この本を読めば“現存被ばく状況”や“正当化”“最適化”といった、私たち一般の読者にはやや分かりづらいキーワードの意味するところを、感覚的に理解することができます。

しかし福島で暮らす私にとってより興味深かったのは、この本が福島の現状に合わせて書かれていることです。本の中でPubl.111について「かなり抽象的な書き方となっています。(中略)世界のどの国でも同じような問題があれば対策検討の手引きとして使えるというメリットもあります」と記されていますが、この本は正しく“Publ.111を福島にどのように生かすのかを橋渡しするもの”と感じます。

事故後の経緯を短くまとめた1章の後、2章では事故の規模や外部被ばくのデータ、内部被ばくの推計など、実際の福島の様々な姿が示されます。3章ではICRPの考える防護の在り方が説明されますが、2章で福島の現状を把握した上で読むと、より鮮明なイメージをつかむことができます。4章は、実際に福島県でなされてきた防護の取組みが紹介されます。個人線量の測定や食事の陰膳検査、ホールボディカウンターによる測定などをどのように防護に生かすか、そしてそれらを基にしたコミュニケーションがいかに重要かが示されます。5章では福島の食品の汚染状況がまとめられますが、多くの作物の汚染が低下しているものの一部には依然比較の高い汚染が残っていること、社会的混乱を鎮めるには生産者・消費者・流通関係者などを交えた議論が必要であることが述べられます。まとめの短い6章の後、最後に放射線による健康影響とリスクについて生物学の立場から解説した別章が付けられています。

Publ.111及びこの解説書にしばしば登場するのが“ステイクホルダー”という文言です。ふだんは“利害関係者”という意味で使われることの多いこの言葉ですが、ここでは“放射線災害からの復興に関わる住民や農業・商工業者の代表など”を広く指しているようです。そして長期にわたる現存被ばく

状況からの回復策の決定に、それらのステイクホルダーが直接関わっていく重要性が強く謳われています。

さらにこの本で強調されているのが“自助”ということです。6章で、福島県いわき市末続地区の活動が短く紹介されています。小さなNPOの協力の下、住民自ら放射線量を測り、ホールボディカウンターの集団測定に出掛け（彼らはそれを“遠足”と呼んでいます）、裏山で採れた山菜を測り、専門家と車座になって話をします。

私は震災の翌年から、この末続地区の取材を続けてきました。初めは人々の表情は硬く、集会では怒号も飛び交うほどでした。しかし、時間を経るにつれ、皆さんの表情はどんどん明るく柔らかくなっていきました。彼らは自らの手で“ここで生きていく

ことの自信と誇り”を取り戻したのです。

この本を、どのような立場の人が読むべきでしょうか。様々なデータは専門家の役に立つでしょう。実践されてきた防護の事例は行政担当者の参考になるでしょう。しかし誰よりも、まだ喪失感をぬぐえない被災者の方に、福島の本物の姿を理解し、これからの行動を考える上で、是非読んでいただきたいと思います。

自らの自信と誇りを取り戻すために。

(大森 真 テレビユー福島報道制作局 担当局長)

(ISBN978-4-89073-245-6, 四六判 236 頁, 定価本体 1,200 円, 日本アイソトープ協会, ☎ 03-5395-8082, 2015 年)

語りあうための ICRP 111 —ふるさとの暮らしと放射線防護—

編著 ICRP111 解説書編集委員会 発行 公益社団法人日本アイソトープ協会
四六判・236 頁 定価 1,200 円+税 会員割引価格 1,080 円+税 【2015 年 3 月発行】

ICRP (国際放射線防護委員会) の Publication 111 は、チェルノブイリ事故からの復興の道を被災地でともに歩んだ経験から生まれた放射線防護の専門書です。この ICRP 111 を、福島第一原発事故の視点から解説しました。原著の中核となる内容を具体例と関連データもまじえて読み解き、同時に、復興を進める手がかりを探っています。付録として、放射線による健康影響とリスクを取り上げました。

復興の実務に必要な知識を深めたい方、放射線の基礎知識がどのように防護の実践に結びついていくかを知りたい方、事故後の情報混乱でわからなかったことをもう一度落ち着いて考えたい方に。必要なところから読みはじめて、どうぞ、まわりの誰かと語りあってください。

公益社団法人
 **日本アイソトープ協会**
Japan Radioisotope Association
〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45
TEL (03) 5395-8082 FAX (03) 5395-8053

◆ご注文はインターネットまたは FAX にてお願いいたします。
JRIA BOOK SHOP : <http://www.bookpark.ne.jp/jria>
BookPark サービス : FAX (03) 6674-2252
◆書店でご注文の際は「発売所 丸善出版」とお申し付け下さい。